

「溶岩（または熔岩）」は正式な岩石名ではありません。マグマが火口壁や爆裂火口列、側火山（寄生火山）などからあふれて、液体状のまま流れ出たもの、またはそれが冷やされて固まったものです。いわば「火山岩の形態の名称」というのが正しいと思います。溶岩が流れている状態や、流路が固結して現存する状態は「溶岩流」と呼ばれています。

富士山には数えきれないほどたくさんの溶岩流があります。それは山頂噴火だけでなく、山腹の多くの場所から噴火した「側噴火」が、富士山には非常に多いからです。富士山ではこれらの溶岩流は「丸尾（まるび）」と呼ばれています。西暦 864 年に長尾山（側火山の一つ）から流下した「青木ヶ原丸尾」が一番有名で、1000 年以上を経た現在では日本最大級の「樹海」を形成しています。ほかにも「剣丸尾」「鷹丸尾」などが有名です。

富士山の溶岩流の特徴は、玄武岩質の溶岩で非常に流動性に富むことです。つまり噴火口（山頂とは限りません）から遠方まで流下するということです。例えば東海道新幹線の三島駅は、富士山の三島溶岩流の上に立地し

ています。

もう一つ特異な溶岩流として、「猿橋溶岩流（さるはしょうがんりゅう）」というのがあります。約 8000 年前（地質年代的にはごく最近）の噴火による溶岩流と考えられていて、富士北麓から桂川（相模川の上流）を流れ下り、大月を超え、現在の中央本線猿橋駅の更に下流まで達しています。これほどの長距離を、半液体の状態のまま流下できる溶岩とはどんなものなのか、想像もできません。現在でもその溶岩流の末端を、大月市猿橋町付近で見ることができます。

2025 年 5 月上旬
山梨県大月市猿橋

